
YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編 9

pokemomtyan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編9

【コード】

N1169U

【作者名】

pokemonmtyan

【あらすじ】

向井と川越との戦いが決着がつく。

怪しい集団の影（前書き）

感想があったら書いてね。

怪しい集団の影

YUI（もう・・・さっさと倒せよ向井！外では神崎さん達が闘っているんだよ！）

向井理（解ってる。けど、微妙にコイツ強い部類の奴等の攻撃に入るんだよ怒。）

向井理と川越達也の闘いは長期化していた。激しい蹴り合いが続いていた。

川越達也（ハアハア・・・中々、強いな向井。僕も年を取りたくないものだ。でも 恋愛に関しては何時でも10代後半の、青年のままさフン笑。ねえ YUIちゃん）川越はYUIにまた、ウインクをしてきた。

YUI（お前も、闘うか、料理するか、ナンパするかのどちらかにしろ怒！）

向井（喰らえ！アタシンチの男子で向井理の名前がそこそこ広まってきたシュート！）

YUI（うわ・・・技名長いし、さりげなく自慢が入っている。うぜえ・・・呆。）

川越（フン。きたな笑。人間なんて自慢して己を高めたい馬鹿な生き物だよな・・・喰らえ！速攻料理奥義・パエリア飛ばし！）川越は、皿に盛っていたパエリアを向井の顔面に当てた。

向井（あっつい！）
YUI（しまった！速攻料理奥義だ！あれって厄介な技なんだよね。）

川越（隙が出来たな笑。フン。喰らえ！ムール貝シュート！）川越は向井の体を両足で貝のように挟み挙げた、飛んで上から叩き落とした。

YUI（向井さん！）

向井（あ・頭が割れる叫！血も出てきやがった痛い！）

川越（うわゝ俺の方が痛えゝ叫！）

YUI（何だよ。お前は技を食らわしただろ？）

川越（年を取ったよな僕も泣。鈍臭く着地に失敗して腰を机に当ててしまった・・痛いよ。）川越は腰を擦りながら、少し涙を見せた。

YUI（お前は何がしたいんだー怒！）

川越（フフン 男子ってたくましい方が良いけれど、草食系男子、

弁当男子って語原も流行っているからドジな男も可愛いと思うよね

YUIちゃん・・今、僕見てぶっちゃけ、キュンとしたでしょ笑）

YUI（何一つしてないわードアホ怒！）

川越（そんな肉食女子のYUIちゃんも、可愛いぞ イヤン！）川越は両腕で自分の目を覆った。

YUI（もう、頭に来た。コイツは私が斬り殺す怒・・・）

向井（姉ちゃん待てや怒・・）向井はYUIの肩に手を置いた。

YUI（お前も結局、何がしたいんじゃないじゃ怒！）

向井（ちよっと黙ってる。コイツは俺が倒さねえと同人誌の連載上・俺が登場した目的が果たせないじゃねえか・・怒。）向井は頭から血を流しながら、煙草を吸った。

川越（フフン しぶといな。ケリをつけてやるぜ。喰らえ！ワインソムリエシュート！）

向井（喰らえ！大手居酒屋チェーン店の速攻料理は、大体がレンジでチンのメニューだシュート！）

YUI（居酒屋に失礼だろ怒！）両者は激しく蹴り合った。

向井（くそ・・中々本当に強いなコイツ怒。）

川越（ハアハア。息切れが・・年は取りたくないよな。精力は、10代後半のままなのにな。）

YUI（もう、下ネタ止めるやお前も怒！）

川越（向井・・YUIちゃん 僕が何で料理人になったか、教えてあげようかフフン。）川越は机に座り、グラスにワインを注ぎ飲み干して、自分の手で髪の毛をくるくる巻きながら言った。

YUI（確かテレビで見たが、お前が小学2年生頃に家族に料理を作って、喜んでもらえて人に料理を作る喜びをそこで覚えて、ソースの組み合わせとかの調子が整って来たからだったよね？）

向井（何か俺にはどうでも良いは。俺の場合は大学時代にアルバイトして、そのまま卒業して店長になったからな。就活だるいし、自民党政権時代もクソだったからな。）

川越（フフン 実際、あれはテレビウケで、本当は単純な話・・僕には才能がある。更に才能を磨けば金になる。更に更に極めつけは料理できる男子って女の子って寄ってくるじゃん 小さいころから女の子を見るのも、実際手で触れるのも好きだった僕は料理人の道に入ったのさ フフン。）川越はまた、手で髪の毛をくるくる巻きながら話した。

YUI（うわゝゝ・・本当に酷い奴だよコイツ。）

向井（本当に腐りきっているな・・呆。）

川越（腐っている？ハハ笑。人間なんて他人を思いやるなんて幻想的な空想のお話を並べるだけで、実際は自分勝手に他人がどうなっても知らないじゃん。むしろ、他人の不幸を喜んだり、劣っている人間を見ると幸せの笑みを浮かべるだろ笑。実際の世界の人間も腐っているし、此処の登場人物も大体はひねくれていて腐ったやつが多いじゃん それと同じだし人生やったもん勝ちじゃんフフン。）

向井（ムートンシュート！）向井の蹴りが川越の肩に当たり、川越は飛ばされた。

川越（ぎゃゝ肩の骨が砕ける・・痛いよゝ死ぬゝ！）

向井（本当にお前はウザい怒。）

YUI（確かに川越・・お前の言ってることは90%が合っているけれど・・それを言ったら友達出来ないのが分からないのか？）

川越（ふん！僕は女の子がいればそれで良いんだ。もう一つ、お前等に面白いことを教えてやろうか？）

向井&YUI（何だよ・・おもしろい事って？）

川越（フフン。髪の毛をくるくる回さないと落ち着かない。ぶつち

やけ、僕は料理作る何かより、女の子おしゃべりしたり、エッチしている方が5倍は楽しいんだよね笑。そして巨乳の女の子は3倍好きだ。）

YUI（お前は何が言いたいんじゃ怒！禁止用語だろそれ！）

川越（因みに、僕は此れまでの人生の中で、2回離婚している。何でかって？其れは 僕が他に女の子まあ、女の子は自然と寄ってくるんだけど、好きになるからさ）そして、女をコロコロ代えて捨てるのさ）ハハハ。女を捨てる時の俺は格好良くて何時も自分にしびれて、ワインのように酔いしれるんだ ハハハ・ハハハ笑。料理界の貴公子はこの・川越達也！この僕です！ハハハ決まった！ハハハハハ笑。）川越は笑いながらくるくる回りだした。

YUI（最低だ・呆れる。）

向井（俺はこの人見ると、情けなくなってくるな呆・・・）

川越（因みに、今の彼女は森崎友妃なんだけど、バストが88のEカップの女の子で最高だぜ！でも、時々YUIちゃんのようにAカップの貧乳の子も捨てがたいにゃん）

YUI（私は因みにBはあるぞ怒！ってか、彼女いるのにナンパするな怒！）

向井（そうだぞ！俺は仕事で忙しくて、彼女が出来ない・ぶつちやけ、堀北真希ちゃんとは付き合っていた時期があったけれど、彼奴が生田の事好きになった時は俺は涙を飲んで納得したぞ！そんな俺って偉いと思うだろ！このすつとこどっこい怒！）

YUI（お前も爆弾発言するな！叫！）

川越（フフン。長くなつたが終わりにしてやる。負け組共・見てろ！喰らえ！ナイフ、フォーク乱れ飛ばし！）川越はナイフとフォークを取り出し、飛んで向井に全部を向けた。

向井（テーブルガード！でも、肩にフォークが刺さった、痛え。）

YUI（向井さん！）

川越（しぶといな・だが終わりだ！）

向井（お前がだ！）向井は片足を回転させて、煙を出し始めた。

川越（何だ、この技は？）

YUI（ちよつと、長芋みたいに変な技を出すなよ！）

向井（熱を帯びた足は、灼熱の熱さとともに物凄い破壊力を生む・・
）

川越（くそ。防御の構えだ！）

向井（遅い・・ディアブルジャンプ叫！）

YUI（そのままパクリやがった叫！）向井はジャンプをして川越の頭に蹴りを喰らわせ川越は爆発した。

川越（あつつい！ま・さか・・僕がやられるなんて・・友妃・・
そして、浮気候補のYUIちゃん・）

川越はYUIにウインクをして倒れた。

YUI（コイツ・・何処まで女好きなんだ・・呆。）

向井（煙草吸うな・・後、川越。俺はお前の代官山のレストランに真希ちゃんが行ったが、そんなに美味くなかったぞ。でも・・真希は・ぐすん泣。美味しい・美味しいって・・泣。嫌な思い出を思い出させるな！このすつとこどっこい叫！）向井は吸った煙草を川越の頭にすり潰して火を消した。

YUI（いろいろ突っ込みたいが・・もう私も疲れたよ。ほら向井さん行くぞ。皆が外で待っている。）

2人は外に出た。とりあえず、外の敵は皆が斬り倒していた。

YUI（皆、何とか倒してくれた？）

神崎昂（ハアハア。何とか倒しましたよ。本当にコイツ等異常だ。）
枝野（恨みで頭がいっぱいだっただらうな。）

長谷川潤（本当に厄介だったわ。缶さん並にしつこいし。）

葉加瀬太郎（ヨホホホホ。私最近運動をしていなかったんですが、良いシェイプアップになりましたね。まあ、私は後で高カロリーの食べ物を食べまくりますのでさしてあまり意味が無いのですがねヨホホホホ。）

YUI（そう言えば葉加瀬さんは、北川さんや長芋と一緒にだったのに、何で此処にいるんですか？）

葉加瀬（ヨホホホホ。実は私達敵に襲われて、私も一緒に走っていたのですが、ご覧の通り日頃の運動不足がたたって逸れてしまった所に貴方たちが来たんですね。）

YUI（まあ、とりあえず皆でシンデレラ城に向かいますよ。）
一味は歩き出した。その頃、菅直人と北川景子はシンデレラ城にいた。

菅直人（景子さ〜ん。何があっても俺様を第一に守ってねん）

北川景子（逆だろ普通は怒！それより、不気味な感じね・・・何か出そう。）

菅（とりあえず、城壁をよじ登ろう。門は閉まってるしな。景子さんが俺様の肩に乗ると良いぞ。）

二人は肩車をして、まず北川が城壁から城に入ろうとした。

北川（何もいないようね・・・）

菅（しかし、惜しいな。景子さんが今日はスカートの制服姿だったら、俺様下から景子さ〜んのパンツご覗けたのにな〜泣。ちよっともったいないな。）

北川（お前は状況を読み！エロいんだよ馬鹿！）北川は菅の頭を蹴った。

菅（痛たか〜ん。でも、景子さん・・・今日のパンツはピンクと黒の混ざった小悪魔系の奴だろ・・・ふふふ俺様ぐらいの歳+内閣総理大臣にまでなると景子さんのお尻の形を見ただけで分かるんだよな此れが良いあんばいをさせてもらいましたか〜んかんかん笑。）

北川（お前！良い加減にしる怒！しかも当たっているのが腹が立つ怒！）

続

怪しい集団の影（後書き）

感想を書いてね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1169u/>

YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編9

2011年10月9日03時00分発行